

## 平成 26 年度第 4 回岡崎市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成 27 年 2 月 18 日（水）14：00～

場 所：岡崎市役所西庁舎 7 階 701 号室

出席委員：12 名

杉山美穂子、佐々木公麿、小早川佳江、内藤智宣、水野周久、  
築山高彦、武田正道、柴田和子、加藤信昭、土屋亜紀子、牧野聡子、  
三浦節夫

欠席委員：2 名

大岩みちの（会長）、長坂尚希

傍聴者：3 名

1 開会

2 議題

事業計画素案に対するパブリックコメントについて

3 その他

4 閉会

《主な質疑、意見など》

(会長欠席のため、子ども・子育て会議条例の規定に基づき、会長の指名により、築山委員が職務を代理)

## 議題 事業計画素案に対するパブリックコメントについて

事務局より資料1「おかざきっ子 育ちプラン」パブリックコメントの実施結果について」説明

委員： パブリックコメントの数が多く、市民の関心の高さがうかがえます。意見を29項目に整理し、そのうち8項目を修正に反映、それ以外は市の考え方が示されています。

市の回答案は了承を得られればこの形でホームページ等により公開されるということによろしいですか。

事務局： そのような形で進めさせていただきたいと考えています。

委員： 資料2の55ページ、「(8) 子育て短期支援事業」について施設名を削除したのはなぜですか。

74ページ、「(2) 乳幼児期の養育の充実」で「幼児期」を「乳幼児期」にしたのは良かったと思いますが、「養育」は「しつけ」と捉えられます。「養育」「教育」「保育」が揃ったうえで、3つの言葉が理解できるのではないかと思います。「養育」という言葉だけでは、内容がぼやけてしまうのではないかと感じました。

75ページ、ESDについて「英語が話せるおかざきっ子をめざし英語活動を推進するとともに、英語学習を通じて国際理解教育を推進していきます。」とありますが、この影響は幼稚園や保育園ですでに表れており、なかには乳幼児期から英語を話すことができるというスタンスの施設もあります。正しく日本語を理解し話せるよう育成した上で、英語を話せるようにするというバランスが取れる文言にしたほうがよいのではないのでしょうか。本来英語は高学年からですが、自治体の裁量で小学校1年生から行うこともでき、早期の英語教育に流れている傾向があります。日本語の大切さについての記載がなく、英語教育が前面にでている現在の表現は、これから乳幼児期の子どもを育てる家庭には少し刺激的すぎるのではないのでしょうか。

95ページ、教育相談センターでの「教育支援」とありますが、「就学相談支援」の方が良いのではないのでしょうか。

事務局： 55ページの施設名を削除した経緯については、岡崎市としては特に問題はないのですが、県全体の方向性として施設名は出さないことになり、県全体のバランスと合わせ、表現を訂正させていただきました。

74ページについては、前回会議の意見を踏まえて変えたところになります。意味の取り違いなどがなければ、現行のまま公表させていただきたいと考え

ています。

75ページのE S Dについて、計画案にも記載のとおり「岡崎の心の醸成」ということで、自分の住む地域について学び、日本語を含め、岡崎市民としての育ちにつながる教育を推進していますが、一方で国際理解教育を進める上で英語教育にも力を入れているということをご理解いただきたいです。

95ページについて、「就学」よりも広い範囲で子どもを支援し見守りたいという担当課の意向もあり「教育」という表現に変えさせていただきました。

委員： よく言われることですが、ホームステイに行くとその先の文化には順応するが、自分の住む日本の文化についてあまりにも知らないことが多く、国際理解につながっていない。そういったことを受けて「岡崎の心の醸成」に取り組まれているのは大事なことだと思いますが、日本語に関しても十分なものを持っていないまま、英語が話せても何にもなりません。現在の表現では「英語学習をすれば国際教育になる」という部分だけを記載しているので不適切だと思います。この表現を見た若い保護者にとっては、早いうちから子どもに英語教育を受けさせなければという焦りが生じるのではないのでしょうか。

委員： 基本的に小学校英語は音やリズムを楽しみながらやっています。とても楽しい時間になっており、良い環境となっています。また岡崎市は、文科省より英語の教育課程を独自に編成できる特例校の指定を受けていることが特徴としてあります。小学校から始めると中学校でも耳から英語を学べ、よい状態であると思います。日本語教育に対する危惧もあると思いますが、E S Dはいろいろな能力を育てていく中で、人や社会とつながる力を育てていくもので、日本語で自分の思いを伝えたり、表現したりといったことを含め、1つのことではなく、トータル的なものがE S Dです。そのようなE S Dそのものについての説明がもっとあれば良いと思います。

また、教育相談センターは実際には小学校就学児の支援のみならず、小・中学校に入ってからフォローを行っていますので、就学時の支援に限らないということをご理解いただきたいです。

委員： E S Dの部分の表現については、誤解を与えかねない部分もありますので、文言を付け加えることは可能でしょうか。

事務局： 教育委員会に確認します。この場では計画に反映できるかどうかは確約できませんので、議事録とともに皆様にお伝えします。

※ 教育委員会と協議し、本市におけるE S Dに対する考え方と、取り組みの方針を合わせて表現できるよう文章を修正。

委員： 会議資料として整理する前の意見においては、親育ちの大切さが乳幼児期の子育ての前置きとしてたくさん書かれていたように思います。今回の資料では、その人が意見を言う前置き部分が省略されたものに、市の回答が付き

れているので、本来の意見に対する回答としてぼやけてしまっているのではないかと感じます。

また、「親の資質向上」とありますが、子どもの自己肯定感を育むために親にしかできないことがあると思います。「親育ち」「子育て」の部分について、本計画では大切にしていきたいです。

委員：パブリックコメントの意見の載せ方は、事務局側で要約されているということですね。市民からの意見をそのまま転記しているわけではないということではよかったですか。

事務局：ご提出いただいた意見は、意見というより感想や想いを記載した部分が多く、それらを整理し、取りまとめたものを資料として提示させていただいています。読む人によっては熱い感想も意見として取れるのではないかという思いがありますが、それをすべて載せると膨大な量になり、かえって要旨が捉えにくくなるため、このように整理をさせていただきました。

委員：市民のニーズ調査した場合、それをどう斟酌し計画に盛り込んでいくのが難しいところだと思います。いろいろな意見を反映していかなければならず、制約もたくさんある中で、事務局でよく整理していただけたと思います。しかし、出された意見は市民の方にフィードバックするべきだと思います。入口のところではねられてしまったという受け止め方をされないよう配慮をお願いします。

市の回答は十分練られた上で作成されていると思いますので、このままで良いと思いますが、市民の意見や感想はそのまま載せ、回答で整理をする形式とした方が、意見を出した人の考えがより伝わるのではないのでしょうか。

事務局：パブリックコメントの回答として公表する際には、意見をだされた方の想いの部分もできるだけ残して掲載できるよう修正します。

委員：この内容とは別になるかもしれませんが、子ども・子育て支援事業について、安倍総理の演説の中で「従来の発想を改めていかなければならない」とあり、フレックスタイム制度の拡充などにも触れ、ただ就労支援を促進するだけではなく、働き方についての社会改革も同時に考えられていることも忘れてはいけません。労働による疲労が少子化を促進させる可能性も考えられます。

また、保育士等の処遇改善についても私立幼稚園への影響を危惧しています。

委員：子ども・子育てについての議論は、明日の日本をどうするかということにつながるものであり、広くされるべきだと思います。大いに議論を行う中で、行政として救えるところは救っていただきたい。

委員：今回の議論については、事務局より大岩会長にご報告いただき、事務局は引き続き計画策定をすすめてください。

事務局：ありがとうございました。事業計画については最終的な調整を行い、3月

中に市民の皆様にお示しする予定です。4月からは子ども・子育て支援新制度が始まりますが、委員の皆様には今後も計画の進捗評価などにお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。

次年度以降の子ども・子育て会議は、年1～2回ほど開催の予定で、次回は秋ごろを予定しています。

#### こども部長あいさつ

長時間熱心にご議論いただきありがとうございました。子ども・子育て会議設置時に市長からも「次代を担う子どもたちやその保護者、関係の方々にとって最善の支援策になるよう委員の皆様からご意見をいただきたい」というお願いをさせていただきました。以降、アンケート調査、各種サービスの量の見込みと確保方策、子ども・子育て支援制度の各種基準、基本理念を実現するための様々な基本施策の在り方など、短期間に膨大な内容を議論いただき、事業計画を形にすることができました。改めてお礼を申し上げます。

事業計画は策定されたときがスタートです。今後本計画を基本的な指針とし、家庭、地域、事業所、行政が一体となり施策の推進を図っていきたいと思います。また多くの市民の皆様方にこの計画を知っていただくとともに、計画の指標や目標の進行管理が重要になってきます。来年度以降も引き続きご協力をお願い致します。本日はありがとうございました。

事務局： 以上で「平成26年度第4回岡崎市子ども・子育て会議」を終了します。

閉会（15：15）